

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆小売りの増益率5%に縮小 24年度、実質賃金上昇が焦点

・主要小売業の2025年2月期の営業増益率は5%と前期の3分の1に縮小する見通し。相次ぐ値上げで消費者が選別消費の傾向を強めており、食品や日用品を中心に販売が伸び悩む。需要を喚起しようと一部で値下げする動きも出てきた。働く人の実質賃金がどこまで上昇するかが焦点となる。

◆3月後半の消費3.9%増 モノ消費の伸び拡大が押し上げ

・ナウキャストとJCBは15日、クレジットカード決済額に基づく3月後半の消費データを発表。名目で前年同期比3.9%伸長。増加率は3月前半の2.4%から拡大。モノの消費の伸びが拡大し、全体を押し上げ。モノの消費は4.7%増えた。3月前半は2.3%プラス。アパレルが0.6%増、家電量販店などの機械器具小売業が6.6%増とそれぞれプラスに転じた。

◆2040年度の電源構成、次期エネ計画で策定 長期投資促す

・経済産業省は中長期のエネルギー政策の方向性を示す「エネルギー基本計画」について、2040年度の電源構成を策定する検討に入った。国際公約となる脱炭素目標を示す35年度よりも先の見通しをつくる。企業が将来の投資計画を立てやすくする。政府はエネルギー基本計画をおよそ3年に1度のペースで見直す。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆日本製鉄、水素製鉄に対応の炉開発 総事業費384億円

・日本製鉄は15日、製鉄工程に水素を組み込む技術の確立に向け、新たな研究開発を始めたと発表した。水素と反応させて作った鉄鋼原料を電気で作る炉を開発し、二酸化炭素(CO2)の排出量を削減する。研究期間は2028年度までの5年間。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の補助金230億円を含め、総事業費は384億円を見込む。

◆2月の機械受注、前月比7.7%増 製造・非製造ともに伸び

・内閣府が発表した2月の機械受注統計によると、設備投資の先行指標とされる民需(船舶・電力を除く、季節調整済み)は前月比7.7%増の8868億円だった。増加は2カ月ぶり。製造業、非製造業ともに発注が大きく伸びた。基調判断は「足元は弱含んでいる」で据え置く。製造業は9.4%増の3963億円と2カ月ぶりのプラス。17業種中14業種と幅広く前月比増加。

◆3月の新築一戸建て、23区は2014年4月以来最高価格を更新

・東京カンテイは主要都市における3月の新築一戸建て(土地面積100㎡以上300㎡以下)の供給動向を発表。首都圏(1都3県)の平均価格は、前月比0.2%増の4428万円と反転上昇。東京23区が前月比10.0%増の9026万円と反転上昇し、2014年4月の集計開始以降最高価格を更新。港区と品川区の高額事例が平均価格を押し上げた。

《 注目商品 》

■ウッドワン、省施工な収納・棚板シリーズ

・人気の収納・棚板シリーズ「仕上げてる収納」「仕上げてる棚板」にウォームグレー色を追加し4月11日から受注開始。「切れてる・貼れてる・仕上がってる」をテーマにした省施工な建材シリーズで、棚板はカット済みの全面エッジ貼り。現場でのゴミ削減効果もある。



■LIXIL 「Gスクリーン 目隠しフェンスタイプ ルーバーパネル」

・庭やファサードを立体的に演出する「プラスG」より「Gスクリーン目隠しフェンスタイプ ルーバーパネル」と「Gスクリーン 鋳物デザインパネル」を発売。外部からの視線を完全に遮断し風を通す「目隠しフェンスタイプ ルーバーパネル」は、敷地境界線の目隠しにも最適。



■オムロン、太陽光パネルの高出力化に対応するパワコン

・住宅向けの「太陽光発電用パワーコンディショナKPR-Aシリーズ」および「マルチ蓄電プラットフォームPVユニット」の機能を向上したモデルを4月から順次発売。太陽電池セルの大型化と太陽光パネルの高出力化に合わせて、「大電流対応タイプ」をラインアップに追加。

